【表2-1　削りかけ資料：東北】

地域		時期	名称	製作			形状			用途 ほか	表象物	文献
				材の樹種	伐採時期	製作道具	削り	組合せ	その他			
岩手県												
大野村	(字不明)	小	豆アンズキ	〈クルミ〉	——	——	?	——	——	飾(軒に挿す)／※太いものが大豆、細いものが小豆	作物	1
久慈市	長内町	小	マメ(大豆)	ミズキ	——	マメナタ(専用)	○	——	——	飾(梁から吊るす)	作物	2
			イト(麻絲)	〈柳〉	——		○	——	——		作物	
	宇部町	小	削り掛	〈クルミ〉	——	——	○	——	——	飾(門松の代りに用いる)	—	2
	宇部町(滝ノ沢)	小	イド(麻)	オニグルミ〈クルミ〉	——	——	○	——	——	室内に吊るす	作物	調08
			マメ		——	——	○	——	——	室内に立て飾る	作物	調08
			アズキ		——	——	○	——	——	室内に立て飾る	作物	調08
	宇部町(小袖)	船の作法※	ケズリカケのオトーミョー	——	——	——	○	——	——	※本来はオヤフネ(廻船)が沖で夜を迎える際の習俗：カシキが「隠岐国タクシの権現!…」と唱えながら、ケズリカケのオトーミョーを海中に捧げる。厳重な式として毎晩行なわれた／※1939年当時、南部領北端付近の漁師の中でも行なう人あり　※当時この辺の漁民達は酒田－松前間のベンザイ船に乗り組んでいた	—	3
	山根(端神)	小	イド(麻)	オニグルミ〈クルミ〉	12月の降雪前	小刀	○	——	——	飾(長押に挿す)	作物	4・調08
		小	?	ミズキ	——	——	○	木に付ける	——	菊の花のように削り、木に挿して飾る	—	調08
八戸市	(字不明)	節分?	ヤツカガシ	——	——	——	○	——	——	※南部氏や西川氏が用いた	—	2
玉山村	(字不明)	小	〈田植え畑まき〉	〈ならの木〉	——	——	?	※	——	飾(※肥盛りに門松を立てて年縄を張り、〈なら〉で作ったきゅうり・かたうりの実・花を吊るす。肥盛では田植、畑まきの真似事をする)	花	5
川井村	小国	小	夕顔・なり木	〈クルミ〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(棒状の〈クルミ〉と夕顔を模した削り花をクリ等の木に成らし、前庭に立てる。クリの枝に藁沓・馬沓を下げる家もある)／※夕顔を付ける木を伐ってくることを〈ながらびき〉と言う	花	6・調06
遠野市	(字不明)	小	夕顔(ゆわご)・けずりかけ	〈クルミ〉	——	——	○	クリに付ける	——	庭の真ん中に立てる、けずりかけとも言う。	花	7
	青笹町中沢	小	夕顔	〈クルミ〉	——	鉈	○	ミズキに付ける	——	飾(〈クルミ〉で作った夕顔の実と花、カボチャを模したミカンの皮をミズキに成らす〈夕顔ならせ〉)	花	8
	土淵	小	なり木(総称)	〈クルミ〉	——	小刀	○	クリに付ける	——	飾(〈クルミ〉で作った夕顔の花と実・馬沓(南瓜の花)・短冊をクリの木に付け、前庭の中央に立てる)	花	9
住田町	世田米	小	削り花	〈クルミ〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(棒状の木と削り花を栗に成らし、庭の入り口に立てる)／※ユウガオの豊作祈願という	花	10・調06
釜石市	橋野町	小	(花)	〈クルミ〉	——	——	○	?	——	飾(門に飾る)／※詳細不明	花	8
大船渡市	立根	小	きんこ(総称)	〈クルミ〉	1・8〈山入り〉	——	○	クリに付ける	——	飾(〈クルミ〉で作った花や蕾・南瓜、ウリの型(藁製)をクリの木に付け、戸外に立てる)／※きんこを作る時には風呂に入って身を清め、女性を近づけない	花	11・12
大船渡市	赤崎	小	アワボ	〈カヅの木〉	——	——	○	タケに付ける	——	飾(皮剥いたもの、剥かないもの12本ずつ(閏年は13)竹につけて堆肥場に挿す)→子どもたちが盗みにくる。これをアワボホロギと言った→「カシオドリ」の際に2本を叩いて歩く	作物	13・調09

【地域】		【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
	末崎町	小	粟穂	クリ	1・8 〈山入れ〉	かんな	※	クリに付ける	——	飾(クリにつける)／※カンナで薄く削った木を花弁のようにクリの棒に固定する	花	14
三陸町	吉浜	小	成り木(総称)	〈クルミ〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(〈クルミ〉で作った花やキュウリの実をクリに成らし、門松の心棒に結び付ける。棒状の〈クルミ〉はキュウリを表す。他に藁で作ったナリモノも下げる)→クリは苗取の日(田植の前日)に田の神に進ぜる小豆ご飯を炊く焚物とする。	花	15・16
	起喜来	船の作法※	(オドーミョー)	——	——	——	○	——	——	和船の廻船が沖で夜を迎える際の習俗:カシキが削りかけに火をともし、頭上で廻してから海中に投げ入れる／※沖でこの燃えさしを拾うと吉兆として喜び、拾って郷里のお宮に供える ※明治初年まであった	—	3
	砂子浜	船の作法※	オドーミョー	〈薪〉	——	——	○	——	——	漁船が沖で夜を迎える際の習俗:カシキが削りかけ3本を棒に結わえ、それに点火。右手高く掲げ「お灯明お灯明！…」と唱えた後頭上で3度廻してから海中に投じる／※沖でこの燃えさしを拾うことを吉兆として喜ぶ　※1910年代頃まで行なわれた	—	3
石鳥谷町	新堀	小	(きんこ)	〈クルミ〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(クリに成らし戸外に立てる)	花	15
江刺市	武道坂	小	あわぼ木 (総称)	クリ・〈松〉	1・1	——	○	クリに付ける	——	飾(クリや松で作った粟穂・削り花をクリに成らし、外庭に飾る)／※内庭には、餅で作った〈あわぼ木〉を立てる	花	8
水沢市	黒石町 (正法寺)	小	キンコギ	〈クルミ〉	——	——	○	ミズキに付ける	——	飾(ミズキの枝に成らす)	花	15
胆沢町	小山 南都田	小	粟棒(あわぼう)	ヌルデ 〈カヅの木〉	——	——	○	クリに付ける※	——	飾(棒状のヌルデと削り花を栗の木に成らし、家の外庭に立てる)→2月1日の餅の蒸釜の焚木に／※小山では近年になって割竹に成らすようになった家も	花	17
	若柳 (符金)	小	ユウガオ	ヌルデ 〈カヅの木・カジノキ〉	——	——	○	〈柳〉に付ける	——	飾(〈柳〉に成らし、家の前庭に立てる)	花	8・17
前沢町	(字不明)	小	粟穂・稲穂・稗穂(総称)	〈キリ〉・ 〈カツの木〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(木を刻んで花のようにしたものをクリの枝に成らし、庭の中央に飾る。また、藁で作ったカボチャなどの野菜型もクリに吊るす〈ヤオヤ作り〉))	花	18
大東町	中川 (篠ヶ崎)	小	粟穂(総称)※	〈カジの木〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(棒状の〈カジの木〉とタラノキ、ハナをクリの木に成らし、家の外に飾る。粟穂の間に〈夕顔〉(詳細不明)を立てる家もある)→2月1日に〈栗刈り〉といって下ろす／※ハナのことを〈ツナギ〉という　※屋内に飾る〈粟穂〉はクリに餅を吊るしたもの	花	19
	(堀之内)	小	粟穂(総称)	クリ	——	——	○	クリに付ける	——	飾(クリの木に成らす)	花	19
	(中大畑)	小	粟穂(総称)	※	——	——	○	竹を挿してクリに付ける	——	飾(棒状の〈クルミ〉・タラノキに竹を挿し、クリの木に付ける。削り花も下げる。大根花(笹葉を付けた〈カジの木〉)や、夕顔(フジの蔓を叩き裂いて竹で挿したもの)を下げる家もある)	花	19
	(新城)	小	粟穂(総称)	〈カジの木〉	——	——	○	クリに付ける	——	供(〈カジの木〉の花をクリに成らし柱や家の神に供える)	花	19
	大原 (藤ヶ崎)	小	アワボ(総称)	〈カツの木〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(棒状のヌルデと〈木花〉をクリの木に成らし、庭先に立てる)	花	8
平泉町	(字不明)	小	造花	〈勝の木〉	1・13～14 〈カツノキ迎え〉	——	○	クリに付ける	縄を張る	飾(棒状の〈勝の木〉と造花をクリに成らす。このクリに注連縄を結い、縁側の柱まで張る。また麻ガラを振り立て、真ん中に竹を立てて造花を立てる ※詳細不明)	花	20
	長島	小	きんこならし・(粟穂稗穂)	〈かつの木〉	——	——	○	クリ等に付ける	——	飾(〈かつの木〉で作った粟穂・稗穂・削り花をクリ・ミズキ・〈づさ〉の木等に成らし、庭隅か畠に立てる〈きんこならし〉)	花	20
		小	ハナ	〈カツノキ (接骨木)〉※	当日朝	——	?	クリに付ける	縄を張る	飾(〈カツノキ〉にシデ状に切った紙を吊るす等して〈ハナ〉とし、これをクリに成らす。外庭に立て、ここから軒下まで注連縄を張って馬沓・瓢箪・昆布などを吊るす)／晩には(カツノキ)を囲炉裏で焚いた／※【編者注】カツノキは当地方の方言でヌルデのこと、接骨木はニワトコの漢字表記	花	20

表2-1　削りかけ資料：東北2

【地域】		【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
一関市	(字不明)	小	〈物まね〉	〈かつの木〉	1・14 〈カツノキ迎え〉	——	○	クリに付ける	——	飾(棒状の〈かつの木(栗穂・稗穂)と〈ケズリ花〉をクリの木に成らし、庭先に立てる)	花	21
	厳美町	小	きんこまんこ (総称)	〈かつの木〉	1・13	——	○	クリに 付ける	縄を張る	飾(棒状の〈かつの木〉と削り花クリの枝に成らし、家の庭先に立てる。クリの木から縁側の柱まで注連縄を張り、中ほどに錫杖(次項)をつける)→2月1日に下ろし「花引粥」を煮る焚木する／※キンコを削った皮などを燃やした煙で家中の悪魔祓いとする　※上谷地ではカセドリ行事の際、キンコを打ち鳴らして門付けする	花	8・22
			錫杖	〈かつの木〉		——	○	※	——	飾(※上項参照)／上部一ヶ所に削りかけを施す。地蔵様の杖	杖	22
		小	(おさくだて)	〈かつの木〉	1・13	——	○	竹に付ける ※	——	飾(〈かつの木〉の棒と削り花を組み合わせて割竹に挿し、栗穂・稗穂・茄子・南蛮等の作物を表現し、家の前の畑に植える〈おさくだて〉→2月1日に下ろして、餅を作る際の焚木とする／※竹でなく、クリの木に付ける家もある	花	8・22
		御 大師	飾木・錫杖	〈ハギ〉	——	——	○	——	——	供(1月24日のお大師様の年越の際、小豆団子と共に供える)／※上部1～3ヶ所に削りかけを施す	杖	8・22
	旧真滝村	小	花	〈勝ノ木〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(花をクリの枝に成らし門松の代りに門に立てる)／※夕顔に似せたものを門に吊るす家も	花	23
			(農真似)	〈勝ノ木〉	——	——	○	?	——	飾(〈勝ノ木〉で茄子ナンバン等の花・実を作り、藁殻等と共に畑に挿す)	花	23
	中里	小	(モノマネ)	〈カシの木〉 〈クルミ〉	——	——	○	※	——	飾(ナンバン・茄子・花の形に作り、畑に挿す。木の枝に付けて庭先に飾る家もあった)	花	24
	弥栄	小	物まね	〈かつの木〉	1・14 〈カツノキ迎え〉	——	○	クリに付ける	——	飾(〈かつの木〉で作った栗穂・稗穂・〈ケズリ花〉をクリに成らす)	花	25
						——	?	竹に付ける	——	飾(割竹に木切れを付けたものを上記のクリの傍に立てる)／※なす・なんばんを意味する	作物	25
衣川村	(字不明)	小	キンゴギ・削花	——	——	——	○	——	——	(詳細不明)	—	26
千厩町	(字不明)	小	栗穂(総称)	〈カツノ木〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(〈カツノ木〉で作った栗穂と花をクリに成らす)	花	8
室根村	折壁	小	(物マネ)	〈カツの木〉	1・6 〈若木迎え〉	——	○	クリに付ける	——	飾(〈カツの木〉で作った栗穂・稗穂・花をクリの木に成らす)／※花は「瓜の花」だという	花	12・ 27
藤沢町	(字不明)	小	栗穂稗穂	〈かつの木〉	1・6 〈若木迎え〉	——	○	竹に挿して クリに付ける	——	飾(〈かつの木〉で作った穂に割竹を挿し、これをクリの木に吊るして庭に立てる。また花も作りつけて庭に立てる)	花	28
	黄海 (山中)	小	あわぼう へいぼう(総称)	〈カツノ木〉	1・13 ※	——	○	クリに付ける	——	飾(花をクリに成らす。また棒状の〈カツノ木〉(栗穂稗穂)を注連縄と共に飾り、両側に馬靴を飾って庭前に立てる)／※同地区八景下では1月6日の〈若木迎え〉に〈カツノ木〉を迎えてくる	花	8
花泉町	老松	小	あわぼぉ ひえぼぉ(総称)	ヌルデ 〈かずのき〉	1・14 〈カツノキ迎え〉 ※	——	○	クリに付ける	——	飾(棒状のヌルデ(栗穂・稗穂)削り花をクリの木に成らし、庭先に立てる〈アワヒエを成らす〉。これを〈ものまね〉とも言う)→1月30日〈蔦の年越し〉 に下ろす／※14日を〈かずのぎむげぇ〉と言う	花	29・ 調06
		御 大師	花つえ	ハギ	——	——	○	——	——	供(11月23日の〈御大師〉の際、果報団子と共に供える)	杖	
	金沢	小	ものまね	〈カチノ木〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(〈カチノ木〉で作った実や花をクリの木と割竹にそれぞれ成らし、稲・稗・栗の実った様を真似る)	花	30
							○	竹に付ける	——			

表2-1　削りかけ資料：東北3

秋田県

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
琴丘町	(字不明)	小	ケズリ花	——	——	——	○	——	——	<さいの神>子供達がこれを持って門付け	—	1
秋田市	楢山※	小	ケズリバナ	コシアブラ	降雪前	小刀	○	※	——	飾(※稲穂の代りにマユ玉に飾る)	—	2
	太平地区(一帯)		ハナ	コシアブラ	降雪前	小刀※(専用)	○	<柳>・ミズキに付ける	——	飾(削った花を数十個、<柳>かミズキの枝に挿し、梁などに飾る)	花	調07
	上北手地区(一帯)	小	ケズリバナ	コシアブラ	降雪前	小刀	○	※	——	飾(※稲穂の代りにマユ玉に飾る)	—	2
		2・1年祝	ケズリバナ	コシアブラ	降雪前	小刀	○	<柳>に付ける	——	飾(柳に付ける)	—	2
河辺町	(字不明)	小	稲穂繭玉	<柳>	1・11	——	○	<柳>に付ける	——	飾(花状に削ったものを餅(或は団子)等と共に<柳>の枝に付け、座敷の長押に1対で飾る)	花	3
	(旧舟岡村)	山神祭	削掛け	——	——	——	○	——	——	供(カギと共に山の神に供える)	—	4
雄和町	(字不明)	小	花	<柳>	1・11<柳迎>	特殊な刀	○	<柳>に付ける	——	飾(削った花を数十個、柳に挿し、その柳を門松と同じ所に立てる)	花	5
協和町	稲沢	山神祭	ケズリカケ	——	——	——	○	2本1組	——	供(山の神へシトギ、木製のマサカリ、大小の刀、ナタなどと共に供える)	—	6
西仙北町	強首	小	削り花	タラノキ	1・11<若木迎>	——	○	<柳>に付ける	——	飾(削った花と餅を柳に挿し、茶の間に飾る)	花	7・8
西木村	中里	小	男根	<クルミ>	2週間位前	ナタ(常用)	○	男根と鍬を縄で結ぶ	——	男根と鍬を注連縄で結んだものをご神木に投げ掛け、子孫繁栄を願う<カンデャッコあげ>→落ちたものを持ち帰り、屋敷の成木に掛けておくと実りが良くなるとする	男根	8・調06
			カンデャッコ(鍬形)	ホオノキ	2週間位前	ナタ(常用)	○		——		鍬	
本荘市	(字不明)	小	柳のハナ	<柳>	——	——	○	<柳>・ミズキに付ける	※	供(ミズキや<柳> の枝を大小用意し、大きい枝には餅とハナ10個、小さい枝には餅とハナ3,4個をつけ、大は茶の間、小は台所の柱に飾る<ナシナラセル>)	花	9
鳥海町	直根地区	小	ゴンゲン	ホオノキ	1・6<若木迎>	——	○	——	——	飾(「削りかけ」のゴンゲンを窓々に挿す)	—	10
	笹子地区	小	ゴンゲン	ホオノキ	1・6<若木迎>	——	○	——	——	飾(「削りかけ」のゴンゲンを窓々に挿す)	—	10

宮城県

金成町	(字不明)	小	あわぼうへぼう・あわ棒ひえ棒(総称)	<かつの木>	——	——	○	——	——	飾(棒状の<かつの木>の皮を剥いたもの、剥かないもの、削り花を付ける)→1月31<蔦の年越し>の餅の焚木とする／※夕顔、なす、なんばん等の形に作って立てる人もある	花	1
		※御大師	箸	ハギ	——	——	○	箸1膳	——	供(※11月3・13・23日を三大師と呼び、恵比寿と大黒に小豆餅を供え、大師様に箸1対、杖1本、7個の餅を供える)	花	1
	有馬(長根)	小	アワボヘボ(総称)	<カツノキ>	——	——	○	竹に付ける1対	縄を張る	飾(棒状の<カツノキ>と削り花を割竹に成らし、糠の上に1対立てる。竹には藁と豆殻を結びつける。2本の竹を縄で結び、その縄にワラジ、馬沓、削り花を挟み、糠の上に立てる)→1月31日の餅の焚木とする	花	2・3
		※御大師	箸	ハギ	——	——	○	箸1膳	——	供(※11月3・13・23日を三大師と呼び、小豆餅、7切れの餅、ハギの杖と箸を恵比寿大黒の棚に供える)	箸	3

【地域】		【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
	賢児 (普賢堂)	小	アワボヘボ・ アワボヘンボ (総称)	〈カツヌキ〉	——	——	○	竹やクリに 付ける	——	飾(棒状の〈カツヌキ〉と削り花〈ハナコ〉を割竹に成らし、田になぞらえた場所に立てる。ハナコはクリに付けることもある)	花	4
栗駒町	文字	小	(田植え)	ヌルデ 〈カツノキ〉	——	——	○	※	縄を張る	飾(庭田植をした所に竹竿を立ててそこから縄を張り、ヌルデで作った実(棒)と削り花を交互に挟む〈田植え〉)	花	3・5
		※御 大師	箸	ハギ	——	鉈	○	箸1膳	※	供(11月3・13・23日の晩に小豆団子と共にオデース様に供える)／※各々の晩に箸に花を削り足す(最終的に3段の花が削られる)→保管しておき苗代田の水口へ立てる	花	3
花山村	(字不明)	小	(田植え)	〈梶の木〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(削り花を篠竹に成らし、豆殻と共に雪の上に立てる〈田植〉)	花	6
		11月 ※御 大師	——	ハギ	——	——	○	箸1膳	※	供(※11月3・13・23日に団子と共に大師様に供える)／※初大師(3日)には1段、中大師(13日)には2段、終り(23日)には3段の花(削り)を施した箸を供える	花 (箸)	6
一迫町	小僧	小	稲穂・稲の花	〈カツノキ〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(棒状の〈カツノキ〉を稲穂、削り花を稲の花といい、四ツ割の竹に成らして屋敷内の木に下げる)	花	5
		※大 師講	箸	ハギ	——	——	○	箸1膳	——	供(11月3・13・23日に団子と共に供える)→保存しておき、苗の伸びを見るために苗代に立てる／※3日には1段、13日には2段、23日には3段の削りを施した箸を供える	箸	5
志波姫 町	(字不明)	小	あわぼへぼ (総称)	ヌルデ 〈カチノ木〉	——	——	○	竹や木に 付ける	——	飾(〈けずり花〉を割竹や木に成らし、便所か堆肥に立てる)	花	7
高清水 町	(字不明)	小	削り花	〈かつの木〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(削り花を竹に成らし、屋敷内の一角を田になぞらえて立てる)	花	8
瀬峰町	泉谷	小	(けづり花)	〈かつの木〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(篠竹を三、四本に割り〈けづり花〉を成らす)	花	9
岩出山 町	真山	※御 大師	箸	ハギ	——	——	○	箸	※	供(※11月3・13・23日を各々初大師・中の大師・仕舞い大師と呼び、餡子餅と箸を供える)→川へ流す／※各々の日に箸に花を削る	箸	3
田尻町	大貫 (曲田)	小	アワヒエ (総称)	〈カツヌ木〉	——	——	○	竹に付ける 1対	——	飾(〈カツヌ木で花・蕾・実を作り、笹竹や竹棹を割ったものに成らし、門口の左右に立てる)→2月1日に「アワヒエを刈る」といって下ろし糯米を作る際に焚く	—	10
石越町	遠沢	小	あわぼへんぼ (総称)	〈かつの木〉	1・14？ 〈カツノキ迎え〉	——	○	——	——	飾(〈木花の穂〉を堆肥の上等に飾る〈勝木迎へ〉)	花	11
	禰宜屋敷	小	(あわぼへん ぼ)	〈かつの木〉	1・14？ 〈カツノキ迎え〉	——	○	——	——	飾(〈木花の穂〉を堆肥の上等に飾る〈勝木迎へ〉)	—	12
迫町	北方 ほか	小	アワボ・ヘボ (総称)	〈カツの木〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(〈カツの木〉で作った蕾と花を四ツ割の青竹に成らし、堆肥の上などに3列に並べる〈庭田植え〉)	花	13
	北方 (地粮)	小	アワボヒエボ (総称)	〈カツヌキ〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(〈カツノキ〉を花型に削ったものを女性、表面を滑らかに削ったものを男性とし、各2本を割竹に成らし、豆殻・藁と共に堆肥の上に3列に並べる)→堆肥を運ぶ時まで立てておき、後にお明神様に納める	花	3
南方町	(字不明)	小	粟穂稗穂※ (総称)	〈カツの木〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(〈カツの木〉で作った実と花を四ツ割の青竹に成らし、根元に稲藁・豆殻を添える〈作真似〉)／※稗穂＝ヘボと読む	花	14
		小	(木の花)	——	——	——	○	※	——	飾(古ワラジ・馬沓などに〈木の花〉をつけ、果樹の枝にかける)	花	14
豊里町	本地	小	アワボヘボ	〈カツヌキ〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(〈カツヌキ〉で作った実と削り花を割竹に成らし、竹の根元を豆殻で囲んで庭に立てる。竹先には別の竹を付け、その先に〈ホイホイ紙〉を付ける。正月中飾る)	花	12

表2-1　削りかけ資料：東北5

【地域】		【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
中田町	鶴ヶ埣	小	粟の穂稗の穂／あわぼへんぼ	〈かつの木〉	1・14？〈カツノキ迎え〉	——	○	——	——	飾(〈木花の穂〉を堆肥の上等に飾る〈勝木迎へ〉)	—	12
東和町	錦織(入沢)	小	アワヒエ(総称)	ヌルデ〈カツノ木〉	——	——	○	クリに付ける	縄を張る	飾(削り花12コをクリの木に成らす。また棒状のヌルデ数本を粟、稗として割竹に成らし、この竹からクリの木へ注連縄を張って瓢箪を吊るす。また篠竹3本を3又に立てて〈オックシダケ〉と呼び、麻の成長を願う)	花	15
				ヌルデ〈カツノ木〉	——	——	×	竹に付ける				
	米谷(相川)	小	アワヒエ(総称)	ヌルデ〈カツノキ〉	——	鉈	○	竹に付ける1対	縄を張る	飾(棒状のヌルデ(粟穂)と花型のヌルデ(稗穂)を各々竹に成らし、注連縄と松を取り除いた門松のクリに括る)→20日ごろ下ろす	花	3・16
	米谷(山崎)	小	(木花)	〈カツヌキ〉	——	——	○	竹に付ける？	——	飾(〈カツヌキ〉でハナを削り、穂を竹に挿す。縄を張る) ※詳細不明	花	12
登米町	日根牛	小	アワボヘボ・アワヒエ(総称)	ヌルデ〈カツの木〉	——	——	○	クリに付ける(竹の家も)	——	飾(ヌルデで作った粟穂、稗穂と削り花をクリに成らし、庭に立てる)→2月1日に下ろし〈アワカリ〉、内神様に納める	花	17
津山町	石貝	小	アワボヘボ	ヌルデ	——	——	○	竹に付ける	——	飾(ヌルデで作った蕾・実・削り花を笹竹に成らし、庭に立てる)	花	12
津山町	横山南沢	小	アワボ	〈カツヌキ〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(〈カツヌキ〉で作った実と花を竹に成らし、庭先に立てる)	花	12
志津川町	入谷	小	粟穂稗穂(総称)	〈カツヌキ〉	——	——	○	竹に付ける1対	——	飾(棒状の〈カツヌキ〉と削り花を青竹を割ったものに成らし、門松のシノグイに添えて立てる)→20日まで立てておく。入谷岩沢では2月1日に下ろす	花	18
	大久保	小	粟穂稗穂(総称)	〈カツヌキ〉	——	——	○	竹に付ける1対	——	飾(棒状の〈カツヌキ〉と削り花を青竹を割ったものに成らし、庭先に飾る)→2、3日立てておくが、この間女性は針仕事ができない	花	18
	折立	小	粟穂稗穂／アワボ(総称)	ヌルデ〈カツヌキ〉	——	鉈	○	クリに付ける	——	飾(棒状のヌルデと削り花をクリに成らし、庭先又は門口に立てる。正月中立てておく)	花	3・18
	寺浜	小	粟穂稗穂(総称)	〈カツヌキ〉	——	——	○	竹に付ける1対	——	飾(棒状の〈カツヌキ〉と削り花を青竹を割ったものに成らし、門松の右の柱に添え立てる)→20日まで立てておく	花	18
歌津町	払川	小	アワボウヘボウ(総称)	〈カツノキ〉	——	ナタ	○	クリに付ける	——	飾(〈カツノキ〉で作ったミとハナをクリに成らし、玄関前の庭先に立てる→正月いっぱい又は朽ちた時に下ろす。初雷の際に雷除けに焚く	花	12
			粟穂(総称)	〈かつの木〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(〈かつの木〉で作った穂と花を唐竹を割ったものに成らし、庭先や堆肥などに立てる)	花	19
本吉町	(字不明)	小	粟ぼう稗ぼう	〈梶の木〉	——	——	○	——	縄を張る	飾(ゴミ捨場・堆肥積の端に花を立てて注連縄を張り、注連縄に胡瓜や南瓜型の藁細工・馬沓・草履など下げる)	花	20
	山田	小	アワボウヘエボウ	〈カツノキ〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(棒状の〈カツノキ〉と花をクリに成らし、堆肥場付近に立てる。クリの下枝には馬沓等も吊るした)→1月末日に下げる／昭和30年代に廃絶	花	12
			(アワボヒエボ)	〈カツノキ〉	——	——	○	竹に付ける1対	縄を張る	飾(アワ・ヒエと呼ばれる棒状の〈カツノキ〉と削り花を1対の竹に成らし、2本の割竹の間に注連縄を張る。竹には夕顔・南瓜・芋等を模したもの、モグラ追いに使う木棒等を吊るす場合もある)	花	12
	前浜	小	(ものまね)	〈カツノキ〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(〈カツノキ〉の花を竹に成らし、山積みにした糠に挿す〈ものまね〉)	花	12
	小泉	小	アワボヒエボ	ヌルデ〈カツヌキ〉	——	——	○	竹に付ける1対	縄を張る	飾(棒状のヌルデと削り花を一対の割竹に成らし、庭に飾る。2本の竹の間には注連縄を張る)	花	12
気仙沼市	(字不明)	小	アワボヒエボ(総称)	ヌルデ〈カツノキ〉	——	——	？	クリに付ける	——	飾(棒状のヌルデの皮を剥いたもの(粟穂)と剥かないもの(稗穂)各6本ずつを栗の木に成らす)	—	21
	旧気仙沼町	小	削花？	——	——	——	○	——	彩色？※	(詳細不明)／※13日の市日に「紅白の削花」が売られた	花	21

表2-1　削りかけ資料：東北6

【地域】		【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
	鹿折	小	アワボヒエボ(総称)	——	購入※	購入※	○	〈カツノキ〉に付ける	——	飾(13日のマチで購入した削り花を〈カツノキ〉に付け、庭に立てる)	花	3
	新月	小	粟穂稗穂(総称)	——	——	——	○	クリに付ける	——	飾(粟穂稗穂を模したものと〈削り掛け〉をクリに成らす)	—	22
				クリ	——	——	○	〈カツノキ〉に付ける	——	飾(〈カツノキ〉に削り花を成らし、庭先や畑に立てる)	花	12
	羽田	小	アワボーヒエボー(総称)	〈カツの木〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(棒状の〈カツノキ〉と木の花をクリの木に成らし、庭先に飾る)	花	23
		小	アワボーヒエボー(総称)	ヌルデ〈カツの木〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(棒状の〈カツノキ〉と木の花を割竹に成らし、根元に堆肥を置く)	花	23
	二の浜・梶ヶ浦	小	アワボヒエボ(総称)	——	——	——	○	〈カツノキ〉に付ける	——	飾(〈カツノキ〉に削り花を成らし、庭に立てる)	花	12
	早稲谷	小	粟穂稗穂	クリ	——	——	○	〈カツヌキ〉に付ける	——	飾(〈カツヌキ〉に削り花を成らし、庭先や畑等に立てる)	花	12
	大島	小	あわぼへいぼ(総称)	〈かつの木〉	——	——	○	クリに付ける	——	飾(削り花をクリの木に成らす〈ものまね〉)	花	24
唐桑町	(字不明)	小	粟穂稗穂(総称)	——	——	——	○	竹に付ける	——	飾(棒状の木と〈けずり花〉を割竹に成らし、堆肥に立てる)／※図のみ	—	25
	高石浜	小	ケズリ花	——	——	——	○	——	——	飾／※詳細不明	花	12
北上町	相川	小	アワボ(総称)	ヌルデ〈カツヌキ〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(棒状のヌルデと削り花を割竹に成らし、オタテギに添え立てる)	花	26
	大室	小	アワボ(総称)	ヌルデ〈カツヌキ〉	1・6〈若木迎え〉	——	○	竹に付ける	——	飾(棒状のヌルデと削り花を割竹に成らし、オタテギに添え立てる)	花	26
	小室	小	アワボ	〈カツノキ〉	——	ナタ	○	竹に付ける	——	飾(削り花を〈オタテキサマ(クリの木)〉に結んだ割竹に成らし、正月中飾っておく)	花	12
	追波	小	アワボヘーボ(総称)	〈カツノキ〉	——	——	○	竹に付ける 1対	——	飾(棒状のヌルデと削り花を割竹に成らし、玄関前の門松跡の杭(向かって右)に立てる。向かって左の杭には幣束などを付けた竹竿〈ほいほい紙〉を立てる)→1月26日に下ろす／※昭和14年まで実施　※橋浦の大須や本地、飯野川の中島でも同様の習俗があったという	花	12
河北町	大谷地	小	アワボヘボ	ヌルデ〈カツノキ〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(ヌルデで作った実と花を竹に成らし、庭に立てる。竹の根元にはヌルデで作った木刀も吊るす)	花	12
桃生町	(字不明)	小	粟穂稗穂	〈カツの木〉	1・14	——	○	竹に付ける	——	飾(棒状の〈カツの木〉と削り花を笹竹に成らし糠小屋に立てる)	花	27
	樫崎	小	アワボヒエボ	〈カツノキ〉	——	——	○	竹に付ける	——	飾(糠小屋の糠に松の葉を挿し〈田植え〉、そこに棒状の〈カツノキ〉と削り花を成らせた笹竹を立てる)	—	5
雄勝町	(字不明)	小	はらみご	〈カツノ木〉	——	——	○	ダンポ※とセット	——	供(ヌルデで作ったダンポ(木刀)と共に神棚へ)／※杉山寿1973には、木刀の鍔を削りかけ状にした〈タンポ〉の写真あり	—	28
	大須	小	エーボ・ハラミゴ	ヌルデ〈カツヌキ〉	——	——	○	※	——	鳥追(縁側を叩きカラスを追う)、船霊様を祀る際に船縁を叩く→飾(翌年まで家の入口の上に)／※螺旋状の燻し文様をつけた木刀〈カツヌキダンポ〉もヌルデで作り神棚に供える	—	29
雄勝町	大浜	小	祝い棒	——	——	——	?	——	——	チャセゴの際、子供がこれを持って門付け。家々を叩いて廻る→鳥追(割竹や板を叩いて鳥を追う)	—	29
	名振	小	ハラミ	——	——	——	○	——	——	鳥追・船を叩く	—	29
女川町	出島	小	(削り掛け)	——	——	——	○	——	——	神棚に供えたものと思われる	—	30

表2-1　削りかけ資料：東北7

【地域】		【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
	江島	小	ヤヘイソク	ヌルデ <カツノキ>	——	——	○	小2本1組 +大1本	——	大：子供が持って門付け、嫁や妊婦の尻を叩き、棒をぐるぐる廻してから箪笥・長持を叩く、家人を「祝いましょう」といって撫でる→終了後は屋根に上げておく 小：供(1対で神棚に)	—	31・32
			(祝木)	<かつの木>	——	——	○	——	頭部十字 ※御幣挿む	(※上記のうち、神棚に供える小型のものを指すか？) 供(神棚)／※頭部の切り込みに御幣を挟む。これとは別に削りかけが施されている	—	30
	尾浦	小	ハラミ木	ヌルデ <カツノキ・ カチノキ>	——	——	?	2本1組	——	供(神棚)→14日に子供たちが「カセドリカカカラカ」と唱えながらハラミ木を打ち鳴らし、家々を門付け<かせどり>→15日には神棚・門松等を叩いたり、竹竿などをハラミ木で叩いてカラスを追う)	—	32・33
牡鹿町	鮎川浜	小	ユーモスギ (祝い申し木)	ヌルデ <カツノキ・ カツヌキ>	1・13	——	○	——	——	供(神棚)→子供がこれを持って神棚や門を「祝い申す」と唱えて叩き、その後家々を門付け、「マメになれ」と人々を叩く→供(翌年まで神棚に)	—	32・34
	十八成浜	小	ハラマシギ・ イエモスギ	ヌルデ <カツノキ・ カツヌキ>	1・13	——	○	2本1組	頭部十字	神棚を叩く→1本は腰に1本は手に、子供が門付け、「マメになるように」と人々を叩く(※チャセゴと混同)→供(頭部に鳥追いの幣束を挟み、神棚へ)	—	32・34
	小淵浜	小	ハラマシギ	ヌルデ <カツノキ>	1・13	——	○	2本1組	——	嫁(「祝い申す」と女性の尻を叩く)	—	32
	給分浜	小	イワイギ	ヌルデ <カツノキ>	——	——	○	——	頭部十字	「百まで生きるよう」と人々を叩く	—	32
	大原浜	小	ハラマシギ	——	——	——	?	——	——	家の中の適当な場所を叩く→供(翌年まで神棚に)→煤掃きの際に焼く	—	34
	小網倉浜	小	ハラマシギ	——	——	——	?	——	——	供(神棚)／※戦前までは見られた	—	34
	泊浜	小	祝い棒	ヌルデ <カツノキ>	——	——	○	——	——	子供がこれを持って門付け。神棚を祝い、「マメになれ」と家人の頭の上で棒をぐるぐる廻す	—	34
	寄磯浜	小	ハラミギ→ イワイモーシギ・ イワイマショウギ・	ヌルデ <カツノキ>	1・14	——	○	大2本1組＋ 小1本	※	大：自家の神棚や門松を叩き浜で船玉を祝ってから家々を門付け。ハラシギで「マメになれ」と人々を撫でる→供(神棚・氏神など)小：鳥追(子供がハラミギで物干や空缶を叩く。終了後は屋根に上げておく)／※3段の螺旋状に削る　※かつてはハラミギと呼んだが、現在ではイワイマショウギという	—	3・29・34
	網地島	小	(祝棒)	——	——	——	○	——	頭部十字 ※御幣挿む	／※頭部の切り込みに御幣を挟む。これとは別に削りかけが施されている	—	30
鳴瀬町	室浜	船の作法※	オドーミョー	——	——	——	○	※	——	漁船が沖で夜を迎える際の習俗：カシキが細いケズリカケを数本束ねて竹棒の先に付け、それに点火し、頭上で3度廻してから遠くへ投げる。その際には「ナムゴキドー(御祈祷)、塩釜さん葉山さん…」と神の名前を列挙し唱える<日の入りのオドーミョー>／※1890年末頃まで行なわれた	—	35
石巻市	(字不明)	小	アワボヒエボ	——	——	——	○	木に付ける	——	飾(畑に立てる)／※写真のみで詳細不明	—	36
		小	ハラミギ	ヌルデ <カツノ木>	——	——	○	——	——	供(6日に作り神棚へ)→鳥追(竹竿をハラミギで叩いて鳥を追う)、成木(ナタとハラミギで成木を叩く)、嫁(子供がハラミギを持って嫁を追い回す)	—	36
	稲井	小	はらみ木	<かつの木>	——	——	○	※	——	供(神棚)／※2本1組で切りこみを入れた程度のものもある	—	30
仙台市	全域	小	ケズリバナ	コシアブラ	11月頃 (降雪前)	ハナカキ (専用)	○	ツゲに 付ける	彩色	供(墓)	花	調05
亘理町	荒浜	船の作法※	(削リカケ)	(薪木)	——	鉈	○	——	——	漁船が沖で夜を迎える際の習俗：カシキが削りカケを作ってそれに点火し、右手でぐるぐる廻しながら「オ灯明オ灯明」と叫び、火を海に投げ入れる／※1939年当時で老人のみ記憶する習俗	—	35

表2-1　削りかけ資料：東北8

山形県

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
庄内地方	(地域不明)	小	御用棒	ホオノキ・〈柳〉	——	——	○	——	——	子供達が、塞の神の雪室に参拝に来た村人のために祝言を唱えながら、設置された木材を〈御用棒〉で叩く／※維新前は「如何ナル町村」でも行なわれたが、迫々廃絶しつつある	—	1
八幡町	——	小	ごよん棒	ドロヤナギ	——	——	○	——	——	塞の神の柴小屋〈さんど小屋〉に飾る→嫁(子供らが初嫁の家を門付け、「嫁つぎー」と言って尻や腹を突く)→供(神棚／苗代や水口)／※年市で販売	男根	2
余目町	連枝	小	ゴレンボ(鳥追い棒)	〈柳〉	11月頃から	——	?	——	——	鳥追(塞の神祭り〈セエドまつり〉の翌日、子供らがゴレンボウや五色の梵天を持って鳥追いに歩く)／※昭和30年代に廃絶、棒の詳細不明	—	3
平田町	(字不明)	小	ホンテイ棒(ご神体)	タラ	——	——	×	——	——	塞の神〈セエド・サエノカミ〉の雪室に飾る→嫁(ヅグリ棒で参拝に来た初嫁の尻を突く)	神体	4
			ヅグリ棒	タラ	——	——	?	——	——		男根	
酒田市	宮野浦	正月	ホンテタダキ棒	——	——	——	○	——	——	塞の神祭り〈ホンテタダギ〉の際、子供らが新築した家を門付け、ホンテタタキ棒で大きな丸太を叩いて悪魔祓いとする。	—	5
立川町	瀬場	小	せど神様	柳	一ヶ月位前	——	?	2本1対	顔を描く	飾(床間)→村で雪の祭壇を作り、持っていって拝んでから燃やす／※現在は五色の〈ぼんでん〉で代用	人形	6
	市郎右エ門新田	小	せの神	ホオノキ〈ホンノキ〉	秋のうち	——	?	男女1対	顔を描く	飾(仏壇)→村で雪の祭壇を作り、持っていって拝む。かつてはこれを持って門付けし、嫁を祝った／※頭に幣束を挟む	人形	6
	科沢	小	せどがみ	〈ホンの木〉・〈柳〉・〈クルミ〉	11月頃から	——	○	——	顔を描く	子供らが当屋に飾り、参詣に来た人を唱え言で祝う→翌朝〈せどかみ〉の鬚や髪を焼く〈ひげ焼き〉	人形	6
	中村	小	せの神様・おさいの神様	カワヤナギ・ホオノキ〈ホンの木〉・タラノキ	正月前	小刀(常用)	○	——	顔を刻む	当屋に飾り、お参りした→お宮に納める	人形	6・調03
	中嶋	小	ごれんぼう	ドロヤナギ	適当な日	——	○	——	顔を描く	子供らが当屋に飾り、参詣に来た大人を唱え言で祝う／嫁(尻を突く場合も)→お宮に納める	人形	6
	松の木	小	せどがみ	——	——	——	○	——	顔を描く	男児が当屋に飾った	人形	6
羽黒町	手向	小	セノガミサマ・ケンケロ	ホオノキ	1月7～15日の間／秋のうち	ナタ・小刀(常用)	○※	男女1対	顔を描く	子供らがお宮に集まり、セノガミサマのヒゲ(※削りかけ部分)を焼いた後、祝言を唱え、打ち合わせながら家々を門付けする→川に流す　※男のケンケロのヒゲとして削る	人形	7・8・調04
戸沢村	古口(土湯)	※	でく様	ホオノキ	——	——	○	——	——	※1月7日〈七草〉の夜、未婚の女子と子供が集まり、でく様を焼く〈せど神〉	人形	6
鶴岡市	西目(金山)	小	ケズリカケ	——	——	——	○	——	——	飾(室内)　※詳細不明	—	9
			(鳥追の棒)	〈ホーノ木〉	——	——	○	——	——	〈けづり花〉を付けた棒を持って、「ヨイドレホーイ」「朝ドレホーイ」とどなる	—	
		小	神体	ホオノキ※	——	——	?	——	——	塞の神〈セイの神〉祭りの際、産土である八幡神社に安置する／※ホオノキは神体作り以外には用いてはならないという禁忌あり	男根	10
	大広	小	花	——	——	——	○	団子木に付ける	削り片状	飾(茶の間の天上に飾った〈みつ木〉に団子と共に付ける)	花	11
			ほんだらの木	ホオノキ	——	——	○	——	——	鳥追(ほんだらの木を杖にし、「あさとりほーえ」と呼ばいながら門口まで行き、雪にさして家に入る)	杖	11

表2-1　削りかけ資料：東北9

【地域】		【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
温海町	(字不明)	小	ホダル・ホーダレ	〈クルミ〉	——	小刀	○	※	——	供((神仏や戸窓に立てたタラノキの割木〈十二月・ハッテン〉に添える、2本1組で結びカドバヤシに吊るす、サイノ神参りの際、木に投げ掛けて拝むなど)／鳥追(これを持って門付け。唱え言に合わせて打ち鳴らす村もある)	—	12
	早田	小	ホダレ	〈クルミ〉・ホオノキ・コウゾ	——	小刀	○	※	——		—	12
	山五十川	小	ホダル	〈クルミ〉	——	小刀	○	6本1組団子木に付ける	——	飾(ミズキの団子木に吊るす)又ホダルを持って塞の神を参詣し、掛けて帰る／※戸沢では未婚の男女のみ	—	8・12
	鼠ヶ関	小	ホーダル	〈コージ〉	——	——	?	——	——	塞の神にホーダラを作って立てる	—	8
	木野俣	小	ホーダレ	——	——	小刀	○	ミズキに付ける	——	飾(玄関先に立てたミズキに吊るす)	—	12
	槙代	大晦日	セノカミの杖	サワグルミ	——	——	○	——	——	大晦日、厄年の者が1本ずつ杖をもって神主の祈祷を受け、〈セノカミ〉の神木の根元に供える〈年祝、セノカミ参り〉	杖	13
	関川	小※	?	ホオノキ	1週間前	小刀(常用)	○	——	削り片状	飾(5、6本を団子木に吊るす)→1月7日に下ろし、団子木と共に3月1日の節句団子を作る焚木とする／※生活改善運動により、小正月行事を大正月に行う	—	調03
朝日村	(字不明)	小	ケズリカケ	ホオノキ	——	鋭い小刀	○	団子木に付ける	——	飾(火棚、ダンゴ木に結びつける)／※花のように削る	花	14
	八久和	小	ホーダル	ホオノキ	——	小刀	○	※	削り片状	飾(大神宮様・神棚・火棚の四隅・便所・麻糸乾燥用の掛干に飾るほか団子木〈ナシダンゴ〉につける)	—	15
				ホオノキ	——	小刀	○	——	※	飾(水屋〈ミズヤ〉) ／※上項のような削り片でなく、芯棒から切り離さないものと思われるが詳細不明	—	15
	荒沢	小	ホーダル	ホオノキ※	——	小刀	○	——	削り片状	飾(火棚・鉤・窓・大神宮様の注連縄などに吊るす)／※ホオノキのほかに〈クルミ〉・〈柳〉も用いる	—	16
真室川町	大沢	小	——(片纏型)	〈クルミ〉	——	——	○	——	——	飾(台所や便所の戸口)／※火防のためとされる	纏※	4
真室川町	川ノ内(春木)	小	——(纏型)	ホオノキ	——	——	○	——	——	飾(台所や便所の戸口)／※火防のためとされる	纏※	4
鮭川村	曲川周辺	小	ケズリ花	ハギ	——	——	○	団子木に付ける	——	飾(団子をつけたミズキ〈梨ダンゴ〉を座敷に飾り、そこに舟センベイなどと共に下げる)	花	17
	京塚	小	——(纏型)	ホオノキ	——	——	○	——	——	飾(台所や便所の戸口)／※火防のためとされる	纏※	4
天童市	原崎	小	削り木花	——	(生木を削る)	——	○	——	団子木に付ける	飾(団子をつけた〈団子木〉を大黒柱や座敷の柱に飾り、そこに船煎餅などと共に下げる)→20日に下ろす	花	18

表2-1　削りかけ資料：東北10